

今次、交渉に臨む労使双方の考え方を発言

2月22日(木)の第1回交渉において、労働組合から労働協議会の開催を申し入れました。

この交渉において、西原委員長から具体的な要求内容を説明するとともに、今次交渉に臨む双方の考え方を発言しました。今号では労使の発言要旨を掲載します



【組合:西原委員長】

今後の会社発展のために協力・努力する組合員に報いる会社の対応を求めて交渉にあたる。

申し入れた要求内容は、2月20日(火)の第5回職場委員会で満場一致で決定したものである。電機連合および前富士通労連の統一闘争の中で賃金改善に加え、労働協約の改定、より働きやすい環境・制度の改善に取り組むものである。

昨年4月の分社以降、ニフティ株式会社、富士通クラウドテクノロジーズ株式会社の労働環境の変化は大きく、組合員の負荷は大きいと感じている。組合員がよりよい環境で、それぞれの能力が発揮されるような環境、制度を形成していくため、協議を行う。

ニフティ株式会社、富士通クラウドテクノロジーズ株式会社は、それぞれ経営状況も異なり、また労働環境についても違いがあるため、両社に対して独自項目として、それぞれの労働環境に合わせた内容を要求書に盛り込んだ。

今次交渉においては、組合員の2017年度における会社への協力・努力を認め、2018年度以降のモチベーションを高め働くような会社の対応を求める。

【ニフティ株式会社:要求書を受領】

【富士通クラウドテクノロジーズ株式会社:愛川社長】

本日、要求書をいただいたが、始めに富士通グループの状況についてお話ししたい。

1月31日に富士通が発表した3Qの決算発表では、「本業が伸びていない分を、売却益やコスト削減など本業以外で補っている」現状が報告され、それでも「市場に約束した連結営業利益1,850億円の目標は修正しない」となっている。

田中社長からは、目標達成に向けて「本業の収益力をいかに上げるか、コストセーブも念頭に、短期中期の両面から期末に向けたラストスパートをグループ全社にお願いしたい」とのメッセージが出ている。

振り返って、我が社が置かれた状況にはさらに厳しいものがある。

昨年4月に分社し、全社を挙げて自立に取り組んでいる最中に、取引先の解約や値引き要請などが相次ぎ、その対応に追われるとともに、予想外のトラブルが売上拡大に向かう力を阻んでいる。また、待ったなしの投資も経営の重しとなり、来年度の予算のメドも立たない状況である。

さて、本日ご説明いただいた要求内容にある「賃金水準の改善」は、5年連続の改善要求となり、中長期的な経営への影響を考えると非常に厳しい要求である。

しかしながら、このような環境でもFJCTの将来を信じて努力されている社員の労に報いるために、賃金にとどまらず、一人ひとりの働きがいにつながる施策について幅広く労使で協議していきたい。そして、社員と会社にとって最良の答えが導き出せるよう会社回答を検討していくので、ご理解ご協力をお願いしたい。

以上

ストライキ指令権委譲投票へのご協力をお願いします

投票期間 2018年2月26日～3月9日

投票方法 Webによる投票（メールにて投票URLを連絡します）

これは2018年春季交渉において、ストライキ実施の判断（指令権）を組合執行部に委譲することの賛否を問うものです。

現時点でのストライキの実施を意味するものではなく、交渉における組合員の総意を示すための投票です。

【委譲範囲】ストライキの規模：72時間以内・無期限の時間外、休日出勤の拒否

次号は第2回交渉報告（3月9日発行）を予定しています。